

## 旧生田川址の碑 加納町3丁目

## ●「加納町（かのうちょう）」の由来



旧生田川は布引から税関線を通り、加納町3丁目、市役所の前のフラワーロードを通り税関前のあたりで海に流れていた。むかし、この旧生田川は旧菟原（うはら）郡と八部（やたべ）郡の境界でもあり、古くから有名であった。

ところが、この川はしばしば水害を引き起こし、付近の人々を苦しめた。明治に入り、下流にある居留地が水害で被害にあったため、1871（明治4）年から4年がかりで現在の新生田川へと付け替えたのである。旧川敷は加納宗七に払い下げられ、彼はその土地約10万坪を市街地として、彼の名にちなみ加納町と名付けたのである。今、旧生田川の流れていたあと、加納町3丁目の交差点脇に「史蹟 旧生田川址」の石碑が建てられている。

付け替えられた現在の生田川は、かつて一時、暗渠（あんきょ）にしその上を公園にしていた時期があったが、1938（昭和13）年の阪神大水害で大きな被害を出したため、暗渠をやめ今のような形にした。今では、川沿いの生田川公園には多くの桜の木が植えられ、「ぬのびき花街道」の愛称で親しまれ、花見のシーズンには多くの市民でにぎわう。

場所：神戸市中央区加納町3-1

## ●「生田町（いくたちょう）」の由来

昔、生田神社が砂山にあったところからそのふもとを生田村というようになり、明治時代になり生田町となった（「生田」の由来については生田神社の項目を参照）。

## ●「若菜通（わかなどおり）」の由来

泉隆寺でふれた若菜がこの地でとれたことによる。かつてこのあたりは生田の若菜の里と呼ばれ、「若菜御料畑」があった。

## 旧生田川址の碑 加納町3丁目

●「国香通（くにかどおり）」の由来

鎌倉中期の天台座主・澄覚法親王の詠んだ「布引の滝津瀬かけて難波津や 梅か香おくる 春の浦風」の「梅か香」を採り町名にしたという。

●「神若通（かみわかどおり）」の由来

かつてこの地に滝勝寺の末寺の神若寺（しんじゃくじ）があったことから、寺が廃された後も地名として残った。ただし、読み方が後世、「しんじゃく」から「かみわか」にかわった。

●「旗塚通（はたづかどおり）」の由来

明治の頃まで6丁目から7丁目にかけて旗塚という古墳があったことから、それがそのまま町名となった。